

第2回鳥取県地震防災調査研究委員会（津波浸水想定部会）の議事概要

日時：平成27年3月24日（火）15：30～16：30

場所：県庁第2庁舎3階 災害対策本部室

出席者：松原部会長、西田委員、香川委員、富山委員、長戸委員

有識者として、鳥取大学から栢見教授、黒岩教授、澁谷特命准教授も出席

議題：1 第1回津波浸水想定部会の概要及び検討状況の報告

2 比較的頻度の高い津波（L1津波）の設定方法

3 今後のスケジュール

議事概要

- 海岸堤防等のハード対策の基準となる比較的発生頻度の高い津波（L1津波）について、鳥取県沿岸で津波痕跡のある3地震（1964年新潟地震、1983年日本海中部地震、1993年北海道南西沖地震）のモデルから、最大でも3m強の想定津波高になる試算結果を提示しました。
- 最大クラスの津波（L2津波）に対する津波浸水想定（仮）について、第1回部会で出された次の意見については、国交省等と検討中であることを説明し、第3回部会で報告することとしました。
 - ・F28断層と隣接するF36断層、F37断層を一体とした津波断層モデルを検討すること
 - ・F55断層が南側に傾斜した津波断層モデルを検討すること
- 第3回部会（平成27年6月下旬）で、津波浸水想定（仮）の決定、比較的頻度の高い津波（L1津波）について提示する予定です。

（委員からの主な意見）

- 比較的頻度の高い津波（L1津波）のシミュレーション結果が一人歩きし、住民が津波に対して安全という認識を持たないようにしなければならない。
- L1津波検討で使用している津波痕跡の他に、県内にある検潮儀（境港、田後）の記録や、波浪観測データの調査も追加してはどうか。
- 津波防災の検討に当たっては、施設の耐震性についても調査を行うべきではないか。